

先日は、手賀沼定例探鳥会にご参加いただき、ありがとうございました。観察会のレポートを作成しましたのでご覧ください。次回9月の「てがたん」は9月11日(土)で、「トンボとバッタを探そう」がテーマです。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見&打ち合わせは9月4日(土)です。よろしくお願いいたします。

8月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→水の館→水の館前用水路→手賀沼→鳥の博物館
- 観察日時/天気 2010年8月14日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加者 39名(一般19名、子ども20名)
- 市民スタッフ 12名(伊東茂子、蒲田知子、玄地昭八、小泉伸夫、須貝基康、弘實さと子、松村定雄、保田行弘)
- 鳥博職員 2名(塩田いづみ、村松和行)

観察記録 - 8月に観察した生き物リスト-

【鳥類】

カイツブリ科：カイツブリ/サギ科：コサギ/カモ科：カルガモ/クイナ科：オオバン/ハト科：キジバト/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/シジュウカラ科：シジュウカラ/ハトドリ科：スズメ/ムクドリ科：ムクドリ/カラス科：ハシブトガラス/家禽：コブハクチョウ、アヒル

【魚類】 コイ科：モツゴ、タイリクバラタナゴ/ハゼ科：ヌマチチブ、ヨシノボリ/メダカ科：メダカ/ドジョウ科：ドジョウ

【ハ虫類】 ニホントカゲ 【両生類】 ニホンアマガエル、ウシガエル 【甲殻類】 スジエビ 【その他】 モノアラガイ、ヒメタニシ

【昆虫・クモ】

チョウ・ガの仲間：ゴマダラチョウ。ナミアゲハ、キアゲハ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ツバメシジミジャコウアゲハ(幼)/バッタの仲間：ササキリ(幼)、ウスイロササキリ、セスジツユムシ、クビキリギス(幼)、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ(幼)、オンブバッタ、コバネイナゴ、クルマバッタ、ヒシバッタ、ハネナガヒシバッタ、シバズ(声)、マダラスズ(声)、キンヒバリ、(声)、エンマコオロギ(幼)、タンボコオロギ/カメムシの仲間：コオイムシ、ヒメアメンボ、アオバハゴロモ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ/甲虫の仲間：コアオハナムグリ、コクワガタ、ガムシ、ヒメゲンゴロウ/ハエの仲間：ハナアブ種不明(幼)/トンボの仲間：ノシメトンボ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ/クモの仲間：ナガコガネグモ、コガネグモ、ジョロウグモ、アシナガグモ

【花】

キク科：ヒメジョオン、オオアレチノギク/ゴマノハグサ科：ウリクサ、トキワハゼ/ツユクサ科：ツユクサ/アカバナ科：ヒレタゴボウ、アレチマツヨイグサ/アカネ科：ヘクソカズラ/ブドウ科：ヤブガラシ/キョウチクトウ科：キョウチクトウ/ミソハギ科：サルスベリ/クマツヅラ科：ボタンクサギ/アオイ科：ムクゲ/スイカズラ科：ハナツクバネウツギ/マメ科：ヤマハギ/スベリヒユ科：スベリヒユ

8月の観察アルバム



今回のテーマは「手賀沼の魚を調べよう」でした。水の館で手賀沼の魚の種類や特徴、えさの食べ方などを説明してもらいました。魚採りでは6種の魚を観察しました。来年はどんな水辺の生き物が見られるのか楽しみです。



今回の案内人：松村定雄さん、保田行弘さん



① 水の館で職員の方から手賀沼の魚を説明を受けました。



② 水の館前の用水路で魚探し！



③ 用水路でとれたコオイムシは一生を水中で過ごす昆虫。



④ 用水路でとれたヒメゲンゴロウ。

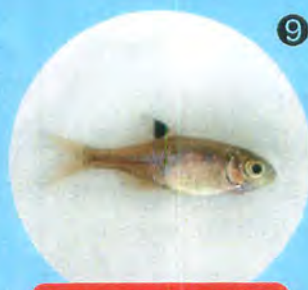


⑤ トノサマバッタの幼虫は口の周りが紫色をしている。



ヌマチチブ

ハゼの仲間で大きさは10cmほどになり、用水路で多くとれた同じハゼ科のヨシノボリよりも大きくなります。青みを帯びた体に薄い白い斑があります。



タイリクバラタナゴの幼魚

タイリクバラタナゴの幼魚とメスには背びれに黒い斑があります。近年手賀沼で見ついている外来種オオタナゴの幼魚にも斑があり、非常によく似ています。



⑨ 外来種タイリクバラタナゴのオスとメス。関西、四国、九州の一部に生息し、数が減少している在来種ニッポンバラタナゴとの交雑が問題になっています。



⑧ 最後の仕掛け網にはハゼ科のヌマチチブがいました。



⑦ 今回一番多くとれたモツゴ体の真ん中に黒い線がある。



⑥ 栈橋に仕掛けた網をあげるとモツゴが多くとれました。

手賀沼に生息するコイ科の魚

コイ科の魚は水質汚染に比較的強いものが多く、平成5年の我孫子市自然環境調査(右表)でも多くのコイ科の魚が確認されました。この表から手賀沼産よりも国内移入種の方が多く確認されていることが分かります。ブルーギルなど外来種の増加が話題になっていますが、国産種でも地域の遺伝的系統などを守るために、むやみな生物の移動は避けるべきだと考えられます。

産地	魚種
手賀沼産	コイ
	ギンブナ
	キンブナ
	モツゴ
	ゼニタナゴ
	ヤリタナゴ
	タナゴ
	ニゴイ
	ウグイ
	カマツカ
	ヨシノボリ

産地	魚種
国内移入(琵琶湖)	ゲンゴロウブナ
	カネヒラ
	ワタカ
	ハス
	ヒガイ
	オイカワ
	ガフムツ
	タモロコ
	ホンモロコ
	スゴモロコ
	ツチフキ
	ゼゼラ

産地	魚種
外来種(中国)	ハクレン
	コクレン
	ソウギョ
	タイリクバラタナゴ

ゼニタナゴやカネヒラ、ホンモロコなどは平成5年時点で手賀沼では絶滅していた可能性が高い種にされています。ツチフキも同様でしたが、現在は増加傾向にあるようです。